

たそ

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI
No. 784

2
February 2022

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会まであと **9** ヶ月



「諸寄漁港の雪景色」(新温泉町諸寄)

特集 兵庫県の水産業のすがた

CONTENTS

- 2 特集 兵庫県の水産業のすがた
- 4 ようそろ
- 5 山田記念賞 表彰式並びに祝賀会 延期
第59回 淡路農林水産祭
- 6 第46回 淡路のり品評会
新温泉町観光振興協議会「かに読本」作成
- 7 明石市漁業組合連合会 かいぼり実施
令和4年度 兵庫県漁村子弟育英生募集
- 8 拓水を紐解く
- 9 兵庫JCC通信
救命胴衣着用義務拡大
- 10 旬に想う
大輪田塾だより

兵庫県の水産業のすがた

特集

第41回全国豊かな海づくり大会の開催まであと9ヶ月となりました。間もなく全国から多数の漁業関係者をお迎えするこの機会に、本県の水産業の姿を見つめ直してみましょう。

水産業の概要

兵庫県は瀬戸内海と日本海に面し、それぞれの海域特性に応じた多様な漁業が営まれています。令和元年の海面漁業・養殖業産出額は485億円で全国9位に位置し、生産量では近畿6府県の約7割を占め、京阪神等へ水産物を供給する重要な基地となっています。

シラス、ホタルイカは全国1位、タコ類、ズワイガニ、ハタハタ、ノリは同2位に位置するなど、生産量が全国順位の上位を占める水産物も多く、貴重な地域資源として各地域の活性化に寄与しています。

また主要な産地では、地元の水揚げされた水産物を利用した水産加工業が営まれ、日本海のハタハタやカレイの一夜干し、瀬戸内海のシラス干しは全国でも有数の生産量を誇っており、県産水産物供給の一翼を担っています。

兵庫県の海面漁業生産の状況

区分	数量	全国順位
漁業就業者数 ※1	4,840人	10
漁船隻数 ※1	5,167隻	7
生産量 ※2	105,497 t	13
海面漁業	40,912 t	19
海面養殖業	64,585 t	6
産出額 ※2	485億円	9
海面漁業	266億円	6
海面養殖業	219億円	10

※1 漁業センサス(2018年) ※2 農林水産統計(2019年)

全国上位を占める主な県内水産物・水産加工品

区分	数量	全国順位
シラス	14,505 t	1
ホタルイカ	3,840 t	1
タコ類	1,262 t	2
ズワイガニ	791 t	2
ハタハタ	1,206 t	2
ノリ(養殖)	53,093 t	2
塩干品(ハタハタ)	1,031 t	1
塩干品(カレイ)	1,273 t	2
煮干品(シラス干し)	4,472 t	2

農林水産統計(2019年)

漁業を支える人々

全国傾向よりも緩やかながら、本県の漁業就業者数は減少傾向が続いています。平成30年の漁業就業者数は4,840人で、全国10位に位置します。

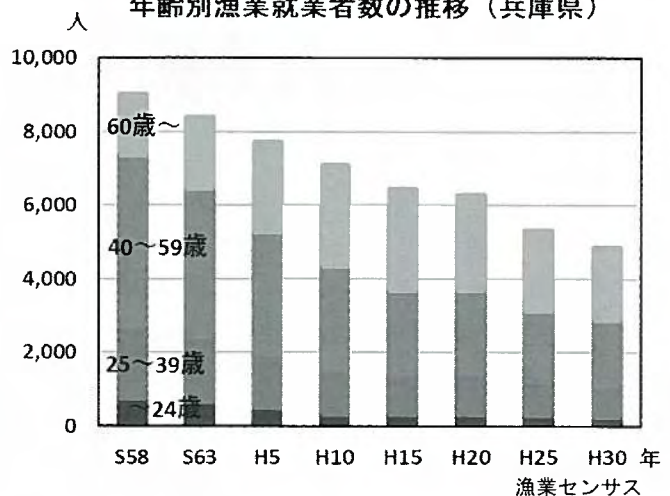
現在、年齢階層別で最も多い60歳以上の割合は、直近15年間では全国で4ポイント上昇し、本県は1.9ポイント低下しています。

漁業就業者数の推移

区分	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H25	H30
兵庫県	100	93	86	79	72	70	59	54
全国	100	88	73	62	53	50	41	34

昭和58年を100とした場合の推移

年齢別漁業就業者数の推移(兵庫県)



漁業を支える漁船

全国傾向よりも緩やかながら、本県の漁船隻数は減少が続いています。平成30年の漁船隻数は5,167隻で、全国7位に位置します。

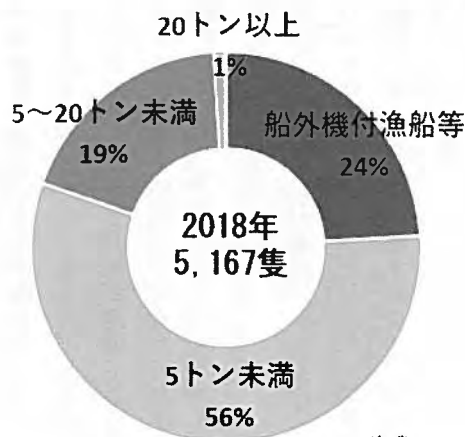
トン数階層別では沿岸漁業に従事する20トン未満の小型漁船が99%を占めています。直近5カ年間は5トン以上20トン未満と100トン以上の漁船が増加しています。

漁船隻数の推移

区分	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H25	H30
兵庫県	100	92	91	87	76	71	63	58
全国	100	92	83	74	67	58	48	41

昭和58年を100とした場合の推移

漁船隻数の構成比（兵庫県）



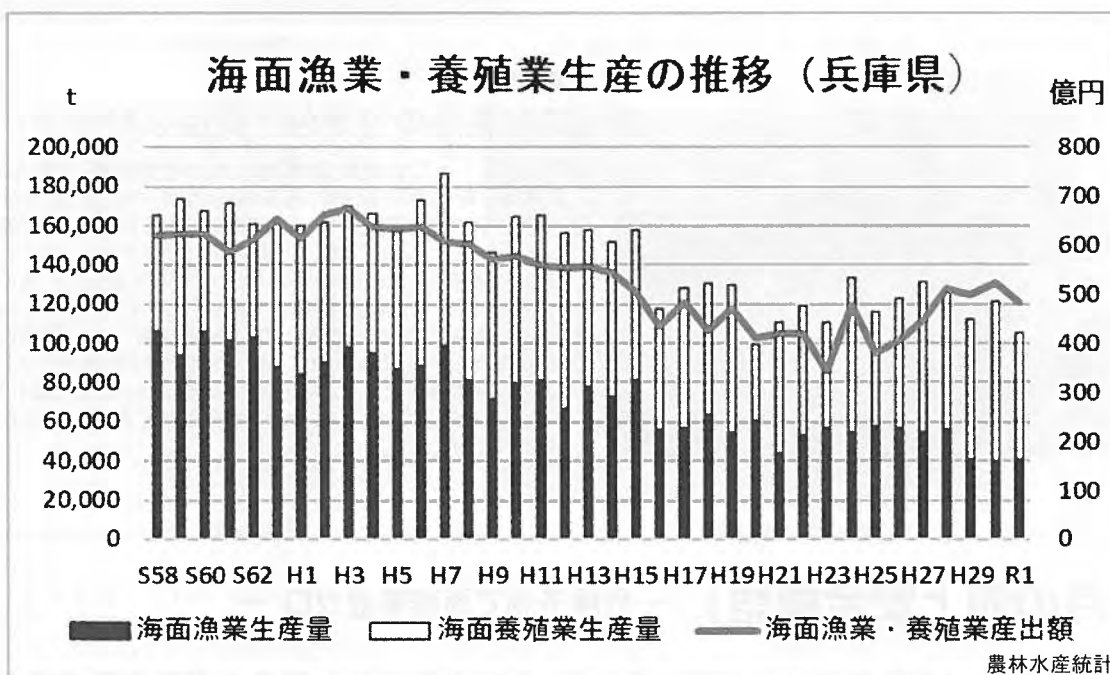
漁業センサス

漁業の生産動向

本県の海面漁業・養殖業の生産量は平成8年から減少傾向に、平成21年頃からは概ね横ばい傾向になっています。海面漁業と海面養殖業の占める割合は、それぞれ昭和58年の64.2%、35.8%から平成30年には33.0%、67.0%となり、海面養殖業の割合が増加しています。

産出額は平成4年から減少傾向が続いていましたが、平成24年から増加傾向に転じています。

昭和58年と比較した生産量、産出額の減少幅は、ともに概ね本県が全国よりも小幅になっています。



海面漁業・養殖業の生産量、産出額の推移

区分	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H25	H30
生産量	兵庫県	100	99	96	100	95	60	70
	全国	100	105	68	50	44	41	35
産出額	兵庫県	100	105	102	93	81	66	61
	全国	100	93	84	68	54	56	49

昭和58年を100とした場合の推移

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。
主に船を直進させるときに号令として使われる)

皆さんのご協力に感謝、感謝

兵庫県漁業協同組合連合会のり海藻部部長代理 **松尾 望**



新型コロナウイルスが猛威を振るう中、感染症対策を取りながら業務に励まれていることと存じます。

このコロナ禍の中、私が思い出すのが2019年度のり漁期のことです。東播地区においての冷凍網張り替え後の最盛期、また他地区においても粘り強く生産を継続している最中、新型コロナウイルスの影響により2020年3月29日開催の第12回入札会が前日に急遽延期となりました。

次回開催日を何時どのようにするのか商社と協議されましたが、他県の共販日程と重ならないようにするため、順延方法をとるようになりました。

また、FAXとメールによる入札を可能とし、サンプルの発送方法、見本開示を2日間にするなど全商社が参加できる共販体制に変更されました。

この方法により海藻部だけでは人員不足のため、各部署から共販部を経験した職員の応援をいただくこととなり共販が開催できる体制となりました。

共販体制は整いましたが、問題は生産者からお預かりしている品物です。12回汐出品分の1億2,250万枚、のり箱約34,000箱が順延となった4月9日共販まで倉庫から動かなくなっていました。

各組合生産者は、この間も全力摘採、生産を行っており毎日続々のりは入荷され、倉庫は数日でパンク状態となりそうでしたが、姫路合同貨物さんの迅速なご対応により、12回汐の品物を別の倉庫に移動するなど、13回汐以降の品物も各組合生産者にご迷惑をかけることなく集荷が出来ました。延期となった12回汐から最終15回汐までの共販も、皆さんのご協力のおかげで無事終えることが出来ました。

本当に感謝申し上げます。

表紙の言葉

「諸寄漁港の雪景色」(新温泉町諸寄)

(写真提供 兵庫県但馬水産事務所 大野泰史氏)

写真は、新温泉町諸寄にある城山園地から見た諸寄地区の雪景色です。城山園地からは諸寄漁港や奇岩連なる海金剛などの絶景を見ることができ、四季折々の風景が楽しめます。

かつて諸寄は、北前船の寄港地として栄えました。港を一望できる高台に在る為世永神社(いよながじんじゃ)は、海の神である塩土翁命(しおつちおきなのかみ)をお祀りし、全国各地から航海安全と商売繁盛を願って多くの絵馬が奉納されました。

現在は漁業の街として、特に冬から春は「松葉ガニ漁」、「ホタルイカ漁」で活気づきます。隣の浜坂漁港とあわせ、日本有数の水揚げを誇ります。



《今月の海上安全標語》 ～ 危険予測で海難事故ゼロ ～

「急に船が動くかもしれない」など、常に「かもしれない」と考えながら作業することによって、「見えない危険」が予測できるようになります。

高めよう 見えない危険を 読む力 では、今月も安全操業で！

第24回 「山田記念賞」 表彰式並びに祝賀会の

延期について



当基金では、永年にわたり本県水産業の発展に尽くされた故山田 岸松氏のご功績を記念して平成3年度から「山田記念賞」を創設し、これを「兵庫県水産賞」受賞者並びに活動実績発表大会において優秀な成績を収められた方々に贈呈しております。

本年度におきましても標記表彰式並びに祝賀会の準備を進めていたところですが、コロナウイルス感染者数の増加を受け、やむを得ず昨年度に続き開催を延期することになりました。

第59回 淡路農林水産祭 開催！

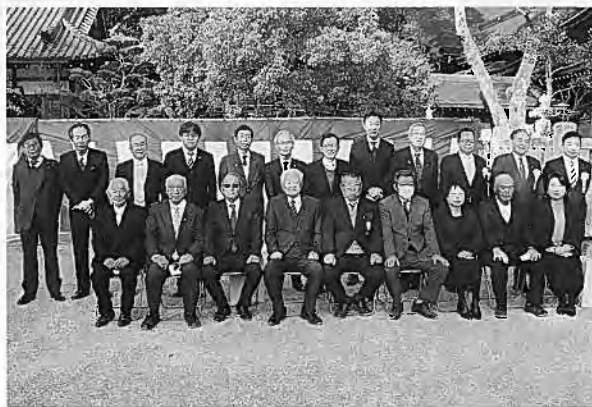
淡路島内のJF組合長らが今年二年の豊漁を祈願

1月15日(土)、淡路島の豊作豊漁を祈願し、農林水産業の振興を目的とした淡路農林水産祭が淡路市多賀の伊弉諾神宮にて開催されました。

今年一年の豊作と豊漁を祈願する「農林水産物豊穰豊漁祈願祭」が淡路島内の漁協、系統団体や行政機関の代表者等が参列するなか執り行われました。引き続き中川 雄二氏(JF津名組合長)がイカナゴやシラスの資源管理、大阪湾での操業調整など地域の水産業の発展に貢献した功績から、兵庫県自治賞を授与されました。また、農林水産功労者として、アオリイカの産



豊穰豊漁祈願



受賞者による記念撮影

卵礁の設置など資源管理や漁場保全、漁業振興に尽力された中元 浩靖氏(JF沼島)、若手漁業者の育成指導や漁港の安全対策・漁業振興に尽力された森 幸好氏(JF森)、島内の漁業振興や漁村を含む地域社会の発展を目指した事業の推進に貢献された奈良 三恵氏(淡路水交会)の3名が農林関係の功労者計10名が表彰されました。農林水産物等コンクール水産加工品(のり)の部では、JF育波浦 桑名水産に知事賞(金賞)、JF育波浦 柿本水産に議長賞(金賞)がそれぞれ授与されました。

【当日、表彰を受けられた方】

(敬称略)

	氏 名	所 属
兵庫県自治賞	中川 雄二	JF津名
農林水産功労賞	中元 浩靖	JF沼島
	森 幸好	JF森
農林水産功労賞(広域)	奈良 三恵	淡路水交会
金賞(知事賞)	桑名水産(桑名幸充)	JF育波浦
金賞(議長賞)	柿本水産(柿本幸久)	JF育波浦

第46回 淡路のり品評会 開催!! 優秀品24点が選ばれる

(一社) 淡路水交会 (東根 壽会長) 主催による淡路のり品評会が、2月3日(木) 淡路水産センター(洲本市)で行われ、報道陣が集まるなか優秀品24点が選ばれました。46回目となるこの会は、生産者の意識の向上と生産技術の研鑽を図る目的で毎年開催されており、12月から1月上旬までに淡路島内で生産された乾のりについて審査を行うものです。

県洲本農林水産振興事務所・系統団体の関係者ら10名の審査員が、応募のあった66点の中から第一次審査で選ばれた50点を対象に、色・艶・風格・味などを基準に審査を行いました。今年は、栄養塩不足により張り込みや生産が遅れましたが、素晴らしい海苔が出揃ったため、会場の審査員は「審査が難しい」と声も出るなど、頭を悩ませていました。

審査の結果、最上位の兵庫県知事賞は柿本水産(JF育波浦)が受賞しました。

なお、今回も出品されたノリはすべて味付け加工して、福祉施設等に無料配布されます。



審査の様子

第46回 淡路のり品評会審査結果表

(敬称略)

賞の区分	漁協名	経営体名	代表者名	賞の区分	漁協名	経営体名	代表者名	
兵庫県知事賞	育波浦	柿本水産	柿本 幸久	兵庫県漁業共済組合長賞	室津浦	元富水産	松下 時久	
兵庫県議会議長賞	室津浦	栄福水産	漣 勝也		森	利平水産	森 利勝	
兵庫県淡路県民局長賞	五色町	鯛中水産	鯛中 秀樹	室津浦	大寅水産	浜田 伸彦		
兵庫県漁業協同組合連合会長賞	一宮町	松本水産	松本 全人	育波浦	桑名水産	桑名 幸充		
兵庫県立農林水産技術総合センター所長賞	森	安啓水産	畠田 安啓	兵庫県JF共済推進本部長賞	仮屋	新平水産	相田 和民	
兵庫県淡路県民局洲本農林水産振興事務所長賞	森	丸金水産	森 義政	育波浦	柳川水産	柳川 高広		
洲本市長賞	五色町	大橋水産	大橋 宏樹	日本漁船保険組合 兵庫県内海支所運営委員長賞	一宮町江井	河野水産	河野 崇起	
	淡路市長賞	森	丸竹水産		畠田 良太	津名塩田	中野水産	谷 忠男
	南あわじ市長賞	湊	三共水産		山形和三郎	仮屋	三大水産	相田 治良
なぎさ信用漁業協同組合連合会 経営管理委員会会長賞	育波浦	内海水産	内海 春樹	一般社団法人 淡路水交会会長賞	森	源吉水産	岡田 桂昌	
	南淡	北西水産	北本 勉		森	大草水産	大草 義美	
	室津浦	辻勝水産	風呂 啓次		森	音蔵水産	森 卓	

新温泉町観光振興協議会が 「かに読本」を作成 ～浜坂のカニの魅力を紹介～

新温泉町観光振興協議会は浜坂のズワイガニの魅力を紹介するリーフレット「カニ元・浜坂 かに読本」を作成し宿泊施設や観光協会などで配布しています。

冊子の初めで、JF浜坂漁協の川越一男組合長が、「上質のカニを活かす努力」や「漁師・漁協・宿の連携で最良の状態のカニを提供」していることを「9つのプライド」として紹介しています。

この他、カニの美味しい食べ方やカニが味わえる宿泊施設なども掲載されています。



海に届け! ため池の栄養!

明石市漁業組合連合会が かいぼり を実施



今季の海苔養殖が最盛期を迎え、海の貧栄養状態の改善が求められる中、明石市大久保町松陰の下川池で1月22日、ため池の底の泥を海に向けて流す「かいぼり」が行われました。「ため池のかいぼり」の実施により、底土等に滞留する栄養分を海に放流し、豊かな海の再生と里と海の協働を図るとともに、本年11月13日に明石市で開催される

「第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」のPRを行いました。

海苔の色落ちや不漁の原因になっている海の貧栄養化の対策として昨年末では、二見町新池で実施してきましたが、今年は大久保町の松陰水利組合等の協力のもと初めて実施しました。寒さが厳しい早朝から明石市漁業組合連合会（大西 賀雄会長）からは20人以上が参加し、池底の泥を人力で掻き出し、消防用ポンプで押し流す「泥掻き出しによるかいぼり」を行いました。農業者と漁業者が協働で実施している「ため池のかいぼり」は、明石市内では2010年度から実施しています。

（明石市漁業組合連合会）



人力による泥の掻き出し

令和4年度 兵庫県漁村子弟育英生募集!!

(一財)兵庫県水産振興基金

兵庫県水産振興基金では令和4年度育英生を次のとおり募集します。

1 応募資格

- ① 県下の漁業協同組合又は水産系統団体に所属する組合員又は職員の「子弟」及び「遺族」であり、高校又は大学等に在学（入学予定を含む）し、所属漁協・団体の長が育英生として適当と認めた方。
- ② ただし、日本学生支援機構等から奨学金を受けている方は、本基金の育英生になることができません。

2 貸与金の額

学 別	貸与月額	
大 学 生	30,000 円	
高校生	通学生	20,000 円
	寄宿生	25,000 円

3 申込方法

所属漁協を通じて「漁村子弟育英生申出票」、「貸与申込書及び添付書類」を提出してください。（3月上旬に各団体へご案内予定です）

提出期日	漁村子弟育英生申出票	令和4年3月31日（木）
	貸与申込書及び添付書類	令和4年4月28日（木）



創刊号 (7月)

昭和三十一年七月十五日発行(毎月毎月) 一冊十五頁 一冊十円

兵庫縣漁業協同組合連合会

「拓水」創刊号

毎月、皆様にお届けしている「拓水」は昭和31年7月に創刊されて以来、66年間にわたり兵庫の漁業史を刻んできました。県漁連ではこの「拓水」800号発行を記念する「機関誌「拓水」から見る兵庫の漁業のあゆみ(仮称)」の発行に向けた作業に着手しており、当基金もそのお手伝いをしています。

発行予定の令和5年9月までの間、制作作業の中で発見した小さな歴史や作業の舞台裏などを不定期でお伝えしていきます。

県漁連が設置した制作委員会の第1回会議で、「機関誌「拓水」から見る兵庫の漁業のあゆみ(仮称)」は検索機能を持った活用しやすい記念誌とすることが決まりました。

現在はバックナンバー783冊の電子文書化を終え、戸田委員長ほか4名の委員の助言を得ながら作業が

進められています。(膨大な作業になりますが、柴田室長頑張ってください)

創刊号に掲載されている兵庫県漁連三浦清太郎会長の発刊のことは「友愛をつなぐ雑誌へ」に記載のとおり、「拓水」は水産に関する技術・知識の向上に関する情報はもとよ

り、漁業者と直接つながりを持つ者からの漁村文化の向上を図るための情報を取りまとめた内容になっており、バックナンバーを紐解けば当時の浜の暮らしぶりを垣間見ることが出来ます。

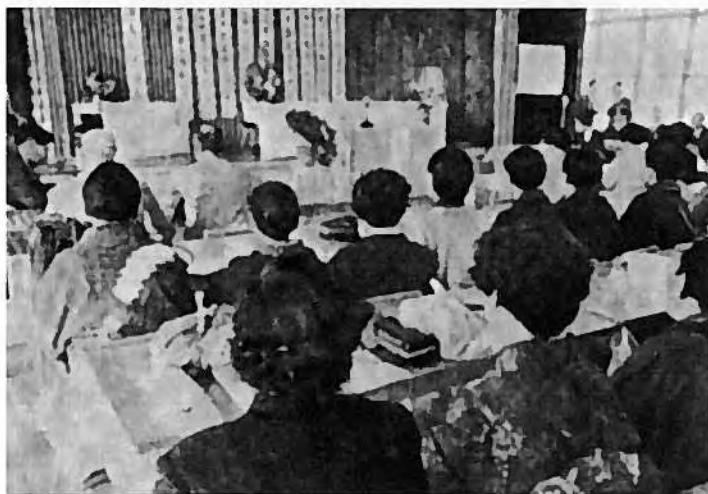
高度経済成長期の入口に差し掛かった「拓水」創刊当時、厳しい生活が続く漁村でもより良い暮らしに向けた様々な取り組みが進められ、この頃に漁協婦人も県下各地で結成されています。

昭和31年10月には第1回兵庫県下漁業協同組合婦人会大会が旧県立水産会館で開催され、予定人員を80名も上回る270名が参加されています。

当時の婦人部は貯蓄、文化、経済、衛生、購買など多岐にわたる取り組みを行っています。

このうち1日10円貯金をはじめとする貯蓄活動は多くの婦人部で取り組まれ、問題もあった頼母子講が大幅に減少したという成果のあった浜もあります。

また、信漁連が行った予算生活についての巡回指導を見た「自賄」という幻灯写真に深く胸を打たれ、「私達漁家を救う道はこれだ!!」と、漁協と協力して水揚代金を「五日勘定」とし、健全な漁家経済に向けた基礎



第1回兵庫県下漁業協同組合婦人会大会

固めをした浜もあります。

ちよっと意外だったのが時間励行運動です。これを漁協でも取り組んだところ、通常1時間位あった役員会開会の時刻が30分以内に短縮したそうです。今では時間厳守の組合長様方の行動規範のルーツは婦人部活動にあるのかも知れません。

この他にも様々な取組みで数々の成果を上げられ、今、浜で暮らす人達に有形無形の恩恵を与えてくれているのでしよう。

先達の労に改めて感謝し、そして次世代に恩返しできればいいですね。

(水産振興基金KK)

長期安定出荷や 省力栽培技術の普及により、 農業所得の拡大をめざす

JA淡路日の出は、瀬戸内海の温暖な気候のもと、花卉生産においてカーネーションやキク、ストックなど多彩な品目が栽培されています。中でも、仏花として需要の高いストックの栽培が盛んです。地域の特性をいかした二期作栽培が特徴で、11月頃から6月下旬までストックを長期間で出荷しています。淡路地域オリジナル品種「淡路シリーズ」をはじめとする晩生品種の普及もあり、長期安定出荷と市場性の高い商品の生産拡大を実現しています。

淡路市の山本晃大さんは、祖父母の代から続くストック栽培を5年前から家族とともにを行っています。30aのストックを栽培する山本さんは、一昨年から新たに頭上灌水設備を導入し、品質向上と作業の省力化に積極的に取り組んでいます。「自動灌水装置へ転換したところ、手灌水時と同水準以上の品質を確保しつつ、作業時間の大幅な短縮につながった」と話します。

高品質なストック生産のために、JA職員との情報交換が欠かせません。同JAの統括経済センターで花卉の専任担当している田中竜也さんは、7年前から花卉の販売や栽培指導を行っています。農業者の所得拡大に向けて、生産者のほ場を積極的に訪問し、栽培技術や作業省力化の提案などを行います。山本さんば市場や他産地の情報などをつつも教えてもらい、とても助かっている」と話します。

JA淡路日の出は、地域の特性をいかした栽培技術や作業省力化等により、農業所得の向上と農業生産の拡大へ向けて取り組みます。



収穫前のストックの生育状況について話す山本さん(左)と田中さん

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

第17回 「新春トップセミナー」 を開催

兵庫県生協連は、1月8日(土)、兵庫県民会館において、第17回目となる「新春トップセミナー」を開催しました。兵庫県知事のビデオメッセージをはじめ、消費者行政の皆様や、兵庫県農業協同組合中央会、兵庫県漁業協同組合連合会、共栄火災海上保険株式会社、会員生協・団体の役員と職員、合わせて41人の方々に会場・オンラインでご参加いただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

冒頭、岩山利久会長理事の開会挨拶に続き、兵庫県齋藤元彦知事から「ポストコロナを見据え新たなチャレンジを行う一年とし、誰一人取り残さない人にあたたかい兵庫県、躍動する県政を進めるため更に連携をすすめていただきたい」とビデオにてご挨拶いただきました。講演で、関西大学 地主敏樹教授は「日本経済の不平等や貧困度は高まってきていたけれど2013年以降さらなる悪化は食い止められていた。しかし、高齢化が進み、非正規雇用も増加する中、コロナ禍により人流が抑制され消費の急減や失業率の上昇が見られ、長期化による影響も懸念される。日本の財政は厳しく、生協のような助け合いの共助組織が社会的セーフティネットの一つとして役割を拡大してもらいたい」と期待を述べられました。多くの事実データを解説いただき、生協が果たすべき役割について共に考える機会となりました。



会場の様子

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

ライフジャケットが命を守ります！

令和4年2月1日から救命胴衣着用義務拡大

小型船舶の船長は、原則、すべての乗船者にライフジャケットを着用させることが義務であり、着用させないと違反になります。

令和4年2月1日からは乗船者にライフジャケットを着用させなかった船長には、違反点数が付与され、違反点数が累積すると最大6カ月の免許停止になります。

もちろん、船長が着用していない場合にも違反点数が課されます。命を守る「ライフジャケット」。キッチリ着用しましょう！



救命合羽

救命胴衣・救命合羽の購入、お問い合わせは、
JF兵庫漁連のり海藻部資材担当 (TEL: 078-942-9272) へ



旬に想う

写真と文
遊方子



《曇り》の雲の条件は

◆明治の辛辣な評論家／斎藤緑雨は、間違いつこ無い天気予報は「所に依り雨」と称した。最近の予報は良く当たる。戦後初の中央気象台長の藤原咲平博士が、予報官の心掛けとして「自分が前に出した予報に引き擦られてはいけない」と言った。その頃は天気図を唯一の材料に、過去の経験値から判断していたため、今は気象レーダーや各地のネットワークで判断材料が豊富、的中率が高く信頼がおける。天気は刻々変わる。過去の経験に引き擦られていては、最新の予報が出来ない。科学全盛の近代でも、天気だけは人間の知能以外の現象で、手に負えず、予知するには「予報士」というプロに頼るしかありません。

◆空にどのくらい雲があると「曇り」というのか。目視で天を仰ぎ全体を10として雲量を判断する。0〜1なら快晴、2〜8は晴れ、9以上なら曇りとする。全国の気象台で一日最低3度は観測して予報をしているという。雨は雨量計で測って気象レーダーで記録し、2分毎に刻々と報道されている。明石周辺では、殆ど雪を見ないが、日本海側では降雪に悩まされ続けている。警報や注意報が出れば、交通への影響をモロに受ける。或る日、ニュースで北陸道で立ち往生する車の長蛇の列を映していたが、当事者にはサゾ難儀なことだったろうと思う。警報の発令は、各都道府県の気象台が独自に基準を設け、豪雪地帯では24時間の積雪見込量を計測する。50センチで注意報、百センチでは警報になる。大阪や東京23区では20センチで警報を出す。沖縄は雪が降らぬから基準自体の設定もない。

◆近畿の天気予報で、大阪府は大和川を基準に北部・南部と区切り、兵庫県は宍粟郡、神崎郡、水上郡以南を南部としてある。細分して出される注意報や警報は大いに役立つ。傘マークが出ている日に掛ける際は、2分毎に最新情報に変わる気象レーダーを見て、雨雲の動きの止み間に出掛ける。近くでの買い物には濡れる気遣いが無いため、非常に役立っている。天気予報は当たらないと言われたのは昔の事で、今の予報は正確度が高く、信頼がおける。

◆《彩雲》という現象で、雲に美しい彩りが出る事が知られ、良い事の起る前兆という言い伝えもある。虹を彩る微かな色彩にも似て、仄かに楽しくなる。花の開花を知らせる「桜の開花宣言」も待ち遠しい。標本木から蕾を10粒採取し、その重さと気象データを組合せ割り出すという。3個の開花を眼で確かめて開花宣言を発表する。東京は靖国神社、神戸は王子公園の標本木によるという。桜は日本国民には大切な樹木であり、開花は毎年の喜びに繋がっている。

大輪田塾だより

11月30日、12月21日に開講 4講座

11月30日は新たに入塾した17期生を迎え、大輪田塾が開講されました。「兵庫県の水産業の概要について」では、県水産課副課長 眞鍋 厚氏から、瀬戸内海と日本海での漁業種や漁業生産量の推移をはじめ豊かな海の再生にむけた取組など幅広い内容で講義が行われました。また、「JF共済事業について」では、共水連兵庫事業所企画推進課長 高田 佐王里氏、管理課長 吉岡 勝彦氏から、共済は保険の技術を利用した組合員同士の助け合いの制度であるなど、JF共済の特色や歴史、事業種類、今後の推進活動について説明がありました。

12月21日には、「栄養塩管理制度とその背景について」では、兵庫県水産技術センター技術参与 反田 實氏から、地域ごとの二丁ズに於いて一部の海域への栄養塩類供給を可能とする「栄養塩類管理制度」が創設された経緯について、栄養塩類と漁獲量の関係など調査結果に基づいた説明がありました。また、「JF兵庫漁連について」では、兵庫県漁業協同組合連合会常務理事 田中 稔彦氏から、JF兵庫漁連の経済事業や指導事業の活動内容、漁船リース事業などの補助事業の取組、漁業法の改正により見直された資源管理の手法などについて説明がありました。

塾生からは、系統事業の仕組みや兵庫県下の漁業種類や栄養塩・水温など海の環境変化、豊かな海の再生に向けた様々な施策、今後の資源管理のあり方についての知識を得る有意義な講義であったとの声がありました。



講義の様子